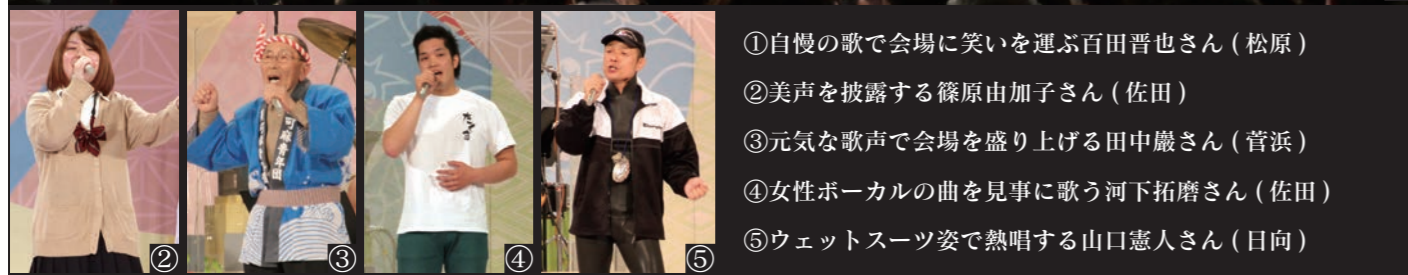




3月23日に、NHK のど自慢が総合体育館で開催されました。当日は、ゲストに天童よしみさん、竹島宏さんを迎え、県内外から訪れた 881 人の観客が見守る中、前日の予選会を勝ち抜いた 20 人が出場。

初めての「のど自慢」のステージに緊張しながらも、自慢のすばらしい歌声やパフォーマンスで会場を沸かせていました。

結果は、ゲストが選ぶ特別賞に、田中巖さん（菅浜）、チャンピオンに篠原由加子さん（佐田）が選ばれました。



- ①自慢の歌で会場に笑いを運ぶ百田晋也さん（松原）
- ②美声を披露する篠原由加子さん（佐田）
- ③元気な歌声で会場を盛り上げる田中巖さん（菅浜）
- ④女性ボーカルの曲を見事に歌う河下拓磨さん（佐田）
- ⑤ウェットスーツ姿で熱唱する山口憲人さん（日向）

Interview



特別賞を受賞された

田中 巖 さん（菅浜）

初めは緊張しましたが、スタッフの和やかな雰囲気のおかげで力いっぱい歌うことができ、夢のようでした。区の集まりで歌うことや、大好きなゲートボールで多くの人と親睦を図ることが健康の秘訣です。

本日のチャンピオン

篠原 由加子 さん（佐田）

大勢の観客の前でライトを浴びて歌うことができ、気持ちよかったです。チャンピオンをいただき自信が付きました。これから、さらに表現力に磨きをかけ、夢に向かって頑張りたいです。



Interview

# 戸嶋秀樹 氏 副町長に就任



中村春彦副町長が、3月31日に退任されました。これに伴い、町では、副町長に戸嶋秀樹氏（宮代）を選任し、3月17日に開会した平成26年第2回町議会定例会で同意されたことを受けて、4月1日付で同氏が副町長に就任されました。

## 就任のあいさつ

この度、4月1日付けをもちまして副町長に就任いたしました。このところ、景気の回復基調が続くと期待されていますが、少子高齢化による人口減少、拡大成長から成熟・低成長の時代へ変わり、地方分権への流れの中、より自立した地方行政の運営が求められています。また、本町では、安全・安心の確保を大前提に、原子力行政の推進、原子力発電と共生する町づくりに取り組むこととしています。

あると同時に、重責を担うことに対し、身の引き締まる思いです。もとより微力ではありますが、山口町長を補佐し、議会や町民の皆様と対話をしながら、山口町長が進める美浜町の将来像「自然かがやき人いきいき町がにぎわう美し美浜」の実現に向け、「健康づくり」や「生涯学習」をはじめとしたさまざまな施策の推進に誠心誠意取り組み所存です。町民の皆様におかれましては、今後ともご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。

## プロフィール

Profile

戸嶋 秀樹（としま ひでき）

■昭和 32 年 7 月 1 日生（56 歳）宮代在住

■経歴

- 昭和 57 年 3 月 鳥取大学農学部 卒業
- 昭和 57 年 4 月 福井県 採用
- 平成 23 年 5 月 福井県福井農林総合事務所 農村整備部長
- 平成 24 年 4 月 福井県農林水産部 農村振興課農地保全活用室長
- 平成 25 年 4 月 福井県農林水産部 農村振興課長
- 平成 26 年 3 月 福井県 退職
- 平成 26 年 4 月 副町長に就任





# 地域で支える認知症

4月5日に美浜町を舞台にした映画「サクラサク」が全国公開を迎えました。  
 本作は、藤竜也さん演じる大崎俊太郎が認知症を発症したことをきっかけに、俊太郎の思い出の場所（美浜町）への旅を通じて、家族が絆を取り戻す物語です。物語の中でも、重要なキーワードとして取り上げられている認知症。認知症は、誰にでも起こりうる可能性がある脳の病気です。  
 もし、周りに認知症の方がいたら、大切な家族が認知症になったら、あなたに何ができますか？  
 認知症の方が安心して暮らせる町づくりのため、認知症について正しく理解しましょう。



©2014 映画「サクラサク」製作委員会

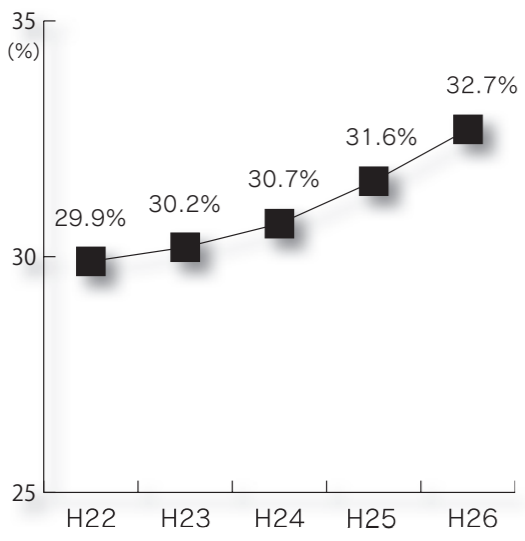
## 二重構造の症状

- ①中核症状
  - 記憶障害  
覚えられない、すぐ忘れてしまう
  - 見当識障害  
時間や月日、場所、人がわからなくなる
  - 判断力障害  
2つ以上のことが重なると理解できなくなる、しくみが目に見えない道具や新しい機械が使えない
  - 判断力障害  
日常生活に必要な作業がこなせなくなる
- ②行動・心理症状（BPSD）
  - 認知症の中核症状によりストレスが生じ、そのストレスを処理するために、二次的に生み出される症状
  - ※本人の性格や生活環境、身体状況、介護者との人間関係等が影響
  - 自信を失い、すべてが面倒になる
  - 道に迷って家に帰れなくなる
  - トイレの失敗等、身の回りのことが自分でできなくなる
  - 行動・心理症状は、なぜそのような行動をするのか理解し、接し方を工夫すれば、症状を和らげたり、表れないようにすることができます。

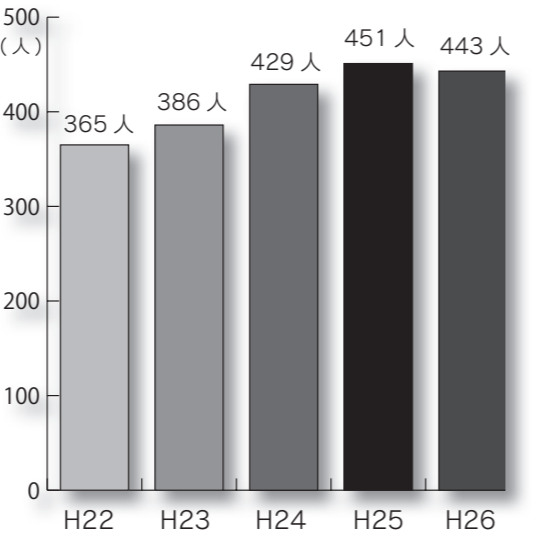
## 町の現状

平成26年4月1日現在、町の人口10,197人のうち、65歳以上の高齢者数は3,335人です。  
 町の高齢化率は、過去5年間を見ても年々増加しており、現在は、全国平均を大きく上回る32.7%となっています。（図1参照）※全国平均25.1%、県平均26.9%（平成25年10月1日現在）  
 また、介護認定者数632人のうち、現在7割以上の443人が認知症を発症しています。（図2参照）

（図1）美浜町の高齢化率（H22～H26）



（図2）美浜町の認知症発症数（H22～H26）



## 認知症とは

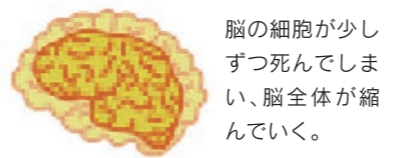
認知症とは、さまざまな原因によって脳の細胞が死んだり、働きが悪くなったりすることで、障害が起こり、生活する上で支障が出ている状態です。

## 認知症と脳のはたらき

85歳以上になると、4人に1人は認知症の症状があると言われていす。今後、その数は20年で倍増するとも予想されています。

認知症を引き起こす病気のうち一般的なのは、脳の細胞がゆっくり死んでいく「変性疾患」と呼ばれる病気で、アルツハイマー等がこれにあたります。次に多いのが、脳梗塞、脳出血等のために、細胞に栄養や酸素が行かなくなり、その部分の細胞が死んだり、働きが悪くなるもので、「脳血管性認知症」と呼ばれています。

### アルツハイマー型認知症の脳の状態



### 脳血管性認知症の脳の状態





# 認知症の母と私

認知症の方を介護する家族等には、大きな負担がかかります。

認知症の方と介護する方、それぞれが安心して暮らしていくためには何が必要でしょうか。

認知症の母を介護する渡邊厚子さんに、実際の体験等を語っていただきました。



↑厚子さんのお母さんが昔制作した「刺し子」

## 初めは理解できなかった

**母**の様子の変化に初めて気付いたのは、10年程前のことです。病気で片耳がほぼ聞こえなくなり、当時楽しんでいた詩吟もやめ、活発だった性格も引つ込み思案に変わりました。その頃から、体の不調を訴え、同じ話を何度も繰り返すようになりました。認知症を疑い、病院で診察してもらいましたが、医師も判断できない状態で、私も「たまたまだろう」と

否定してしまいました。

それから5年程経ち、これまでおしかった料理の味が急に辛くなりました。これはさすがにおかしいと感じ、再び医師に診てもらったところ、認知症と診断されました。

東京で仕事をしていた私は、介護休暇で1週間おきに休みを取り、美浜と東京を1年間行ったり来たりする生活で、体力的に辛かったです。

母は、夕食を作るつもりで、冷凍庫の食材をすべて解凍したり、夕食後には、明日の集会の時間を忘れた

## 介護サービスに助けられて

**現** 在は、週に3回看護士と理学療法士による介護サービスを利用しています。認知症の進行を抑えるために、話しをしたり、百マス計算や塗り絵等を行っています。

また、やはり苑(デイサービスセンター)に、昔母が作った「刺し子」を展示しに行くという名目で、週に1回連れて行くつもりです。1日お世話になることで、とても気持ちが楽になりましたね。母がいない間に散らかったタンスの中も整理ができ、何より自分の時間もできますから。

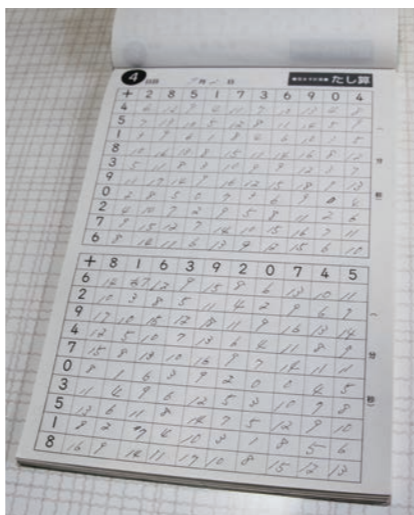
私の場合、初めから医療・介護のサービスを受けようと考えていました。しかし、まだ受容には至っておらず、情けなくも怒鳴ってばかりで

## 割り切り

医療・介護等のサービスを上手に利用すれば、家族でなんとか乗り切っていけるのではないかとゆとりが生まれ、負担感は軽くなります。

## 受容

認知症に対する理解が深まり、本人のあるがままを自然に受け入れられるようになります。



←母の頭の体操になるようにと、厚子さんが買った塗り絵、百マス計算等の本

す。まだ右往左往ですが、母らしさ、家族の中での役割というものを失くさず、1人の人間として尊重したいと考えています。

## 1人で抱え込まないで

**認** 知症の家族を介護されている方は、病氣だと割り切り、積極的に周りの方に伝え公認してもらうことで、気持ちが楽になりますよ。誰にでもなる可能性がある病気の1つです。自分1人で抱え込まず、隠さず、近所の方にも伝え、認知症の方が住み慣れた地域で生活しているのと良いと思います。

今後は、認知症の方が気楽にお話していただける場を作ったり、介護する方が悩みを相談できる家族の会等ができるといいですね。

## 家族の気持ちを理解しましょう

多くの家族が経験する4つのステップを理解し、認知症の方を介護する家族にどのような応援ができるか考えましょう。

### STEP1 とまどい・否定

以前の本人からは考えられないような行動にとまどい、「こんなはずはない」と否定しようとしています。



### STEP2 混乱・怒り・拒絶

さまざまな症状を示す本人にどう向き合ったらよいかかわらず混乱したり、本人を責めたり、「顔も見たくない」と拒絶したりします。疲れ、不安、苦しみが増大し、絶望感に襲われやすいもつとも辛い時期です。(虐待が起こったりします)



### STEP3 割り切り

医療・介護等のサービスを上手に利用すれば、家族でなんとか乗り切っていけるのではないかとゆとりが生まれ、負担感は軽くなります。



### STEP4 受容

認知症に対する理解が深まり、本人のあるがままを自然に受け入れられるようになります。

渡邊厚子さん







村寄文人医師（東部診療所）

# 早期発見・ 早期診断を

認知症にとって大切なことは？

早期診断の重要性や、早期発見に至った際の症状事例等について、村寄文人医師にお話しを伺いました。

## 早期発見の重要性

**認** 知症は、現在の医学では治療に限界があります。完治はなく、また進行する病気であるからこそ、早期に発見して進行を遅らせ、より自分らしい生活を送る時間を早くに確保することが大切です。

従来の健診では発見できないため、周囲の方の気付きが1番大切に

なつてきます。自分で自覚症状がある人は、たいてい老人性健忘症（もの忘れ等）が多いですね。

外では、症状を取り繕うことがあるので、自宅でリラックスしている際に症状が出やすいと思います。

また、早期では症状が毎日続かないため、どんなに些細なことでも、「老化による物忘れかな」等と想った段階で、念のため医師に相談してほしいです。

## こんな症状を見逃さないで

**私** が診察した中でも、認知症の発見に至った事例が何点かあります。

家族は、最近もの忘れが多いと感じていたようですが、高血圧症で通院しているため、医師が気付いてくれるだろうと考え、相談等はありませんでした。

診察中に、「あれーやそれー等の言葉が多く、具体的な言葉が出てこないことが気になり、精密検査をした結果、認知症の診断に至り、早期の治療に入ることができました。

他にも、休診日に間違えて診察に来た人や、真夏に雨具を着ている、曜日を忘れる等の小さな症状でも、認知症を疑い問診をしています。この段階で気付けば、大きく進行を止めることができます。

## 誰もが可能性のある病気

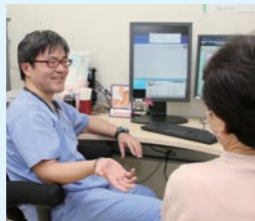
**認** 知症の進行を止めるには、薬の治療以外にも、脳血管性認知症の方なら、魚や食物繊維が多く含まれる食品等、生活習慣病予防等の食事を取ることをお勧めします。

また、アルツハイマー型認知症の方は、自分の役割や趣味等を習慣として持つと良いですね。

認知症とは、あたかも赤ちゃんのように、生まれた元の姿に戻っていくような状態です。赤ちゃんがおむつを替えてと言わないように、認知症の方も下着を替えてと言えませぬ。認知症は、皆さんがかつて赤ちゃんであったように、高齢化により誰もがなりうる可能性がある病気です。認知症になったことを隠さず、みんなで認め合う意識が地域の中に広がっていくことが理想ですね。

## 認知症の診察 STEP1 ~ 4

**1** 問診として、簡単な認知症の試験を行い、30点満点のところ、20点以下の場合には認知症を疑います。



**2** 診察・血液検査等を行い、治せる認知症でないか確認を行います。

認知症の中には、数%治せる認知症もあり、脳内の血のこぶを、手術で取り除いて元に戻った事例もあります。



**3** 進行する認知症の場合、専門医に紹介し、脳の委縮度合いや異常場所を確認して認知症の診断に至ります。



**4** 進行を遅らせる薬を出します。早期の場合、少ない薬の使用で済み、生活の質が改善される場合もあります。進行の度合いで、使用する薬が変わることもあります。

## 認知症早期発見のめやす

（社）認知症の人と家族の会作成

いくつか思い当たることがある場合は、認知症の可能性がります。相談窓口等に相談してください。

- |   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 今切ったばかりなのに、電話の相手の名前を忘れる  | <input type="checkbox"/> ささいなことで怒りっぽくなった        |
| <input type="checkbox"/> 同じことを何度も「言う」「問う」「する」     | <input type="checkbox"/> 周りへの気づかいがなくなり頑固になった    |
| <input type="checkbox"/> しまい忘れ・置忘れが増え、いつも探し物をしている | <input type="checkbox"/> 自分の失敗を人のせいにする          |
| <input type="checkbox"/> 財布・通帳・衣類等を「盗まれた」と人を疑う    | <input type="checkbox"/> 「このごろ様子がおかしい」と周囲から言われた |
| <input type="checkbox"/> 料理・片付け・計算・運転等のミスが多くなった   | <input type="checkbox"/> 1人になると怖がったり寂しがったりする    |
| <input type="checkbox"/> 新しいことが覚えられない             | <input type="checkbox"/> 外出時、持ち物を何度も確かめる        |
| <input type="checkbox"/> 話のつじつまが合わない              | <input type="checkbox"/> 「頭が変になった」と本人が訴える       |
| <input type="checkbox"/> テレビ番組の内容が理解できなくなった       | <input type="checkbox"/> 下着を替えず、身だしなみを構わなくなった   |
| <input type="checkbox"/> 約束の日時や場所を間違えるようになった      | <input type="checkbox"/> 趣味や好きなテレビ番組に興味を示さなくなった |
| <input type="checkbox"/> 慣れた道でも迷うことがある            | <input type="checkbox"/> ふさぎこんで何をするのもおっくうがり、嫌がる |



# 安心して暮らせるまちへ

高齢化が進み、認知症の方が増加している美浜町。

認知症の方とその家族が安心して暮らすためには、地域の方一人ひとりが、認知症について正しい知識を持つことが必要です。

日常生活に関わる人の正しい理解と協力が、認知症の方にとって心強い支えとなります。



認知症サポーター養成講座「美浜中学校」

## 認知症サポーター養成講座

町では、平成23年度から、町内の事業所や小・中学校等を対象に認知症サポーター養成講座を開催し、認知症についての正しい理解を深める活動を行っています。

認知症サポーターとは、認知症について正しく理解し、認知症の方やその家族を温かく見守る応援者のことです。サポーターは何か特別なことをするわけではなく、困っている認知症の方や家族をさりげなく支援します。

例えば、自動販売機の前で困っている方を手伝ったり、元気がなく疲れた様子の介護者に、ねぎらいの言葉をかける等です。

サポーターには、認知症サポーター養成講座を受講すれば、どんなでもなることができます。養成講座では、認知症の原因、症状、認知症の方への対応方法を学びます。平成26年度も引き続き、各集落や団体等への講座を予定しています。

## 予防する意識も大切

認知症は、趣味やウォーキング等の有酸素運動で体を動かすことや、外に出かけて人と交流することによって予防につながります。

町では、要支援・要介護状態となる恐れの高い65歳以上の方を対象とした介護予防教室「元気はつらつ教室」を開催しています。

昨年は町内3会場（佐田・早瀬・新庄）で実施し、延べ718人に参加をいただきました。

教室では、理学療法士や介護福祉士等を講師に、運動機能の向上に必要な柔軟性、筋力、バランス能力に重点を置いた運動や、転倒予防や尿失禁予防、関節痛予防等の介護予防講義を行っています。また、教室終了後にも自宅で継続的に取り組んでもらうため、簡単なプログラムを提供しています。

平成26年度も引き続き開催しますので、皆さんぜひご参加ください。

## 地域で支える認知症

「元気はつらつ教室」参加者

Interview



主人といっしょに参加しています。家で1人だとやらない体操も、たくさんの仲間がいると楽しんでできますね。また、多くの方と話す機会にもなりますし、教室で久しぶりに皆さんと再会するのが楽しみです。ぜひ次回も参加したいです。

Interview



この教室に参加してから、家でも足や腰を伸ばす等、健康に対する意識が変わりました。おかげで、転ぶことも少なくなりましたね。年々、物忘れも多くなっていますが、多くの方と触れ合い、話すことで、認知症の予防にも繋がっていると思います。



町の介護予防教室



↑認知症サポーター養成講座では、寸劇（写真左）や演技指導（写真右）等で認知症の方への対応方法を学ぶ



↑受講生には認知症サポーターの目印である「オレンジリング」が渡される





美浜の名物「へしこ」で観光客をおもてなし  
「へしこ」を使った新メニューの調理実習

■お問い合わせ先  
町商工観光課 担当・伊達  
☎32-6705



←へしこを使った新メニューを調理する参加者

**3** 月26日に、「へしこ」を使った新メニューの調理実習がなびあすで行われました。  
この実習は、映画「サクラサク」全国公開と舞鶴若狭自動車道の全線開通を前に、町内の旅館や民宿、飲食店を対象に町の名物「へしこ」を使っ  
たさまざまな料理を実習し、観光客をもてなそうと町観光



←へしこかた焼きそば海鮮あんかけ(右)とへしこのカップレーゼ、野菜とへしこの羽二重巻き(左)

協会が企画したものです。  
当日は、旅館の女将や飲食店経営者等10人が参加し、松坂隆寛氏(青池調理師専門学校 講師指導の下、「へしこかた焼きそば海鮮あんかけ」と「へしこのカップレーゼ」、「野菜とへしこの羽二重巻き」を調理していました。



若狭路女将の会創立12周年・映画「サクラサク」全国公開を記念  
瑞林寺前広場に桜の木を植樹

■お問い合わせ先  
町商工観光課 担当・今安  
☎32-6705



↑ 鍬入れする山口町長(左)と金森会長(左から2人目)

**4** 月5日に、桜の木の植樹が行われました。  
この植樹は、若狭路女将の会わかさ会(嶺南6市町の旅館・ホテルの女将の会が、本会の創立12周年と美浜町を舞台とした映画「サクラサク」の全国公開を記念し企画したものです。  
金森悦子会長は「1人でも多くの人に映画を見てもらい、花で彩られた若狭路のさらなるPRに努めたい」と挨拶。



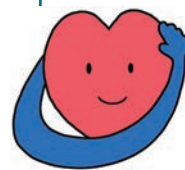
↑ 若狭路PRに意欲を出す若狭路女将の会わかさ会(前列紫色の羽織)

山口町長は、「映画化まで約4年かかりましたが、皆さんのご協力のおかげで、本日の全国公開を迎えることができました」と述べ、金森会長とともに鍬入れを行いました。  
植樹された桜は、約5年育てられた「ソメイヨシノ」で、嶺南6市町のネームプレートがそれぞれ付けられています。



©2014 映画「サクラサク」製作委員会

すまいる活動



**町** では、認知症の人とその家族を地域で支えるためのさまざまな活動を「すまいる活動」と名付け、積極的に推進しています。

認知症になっても、本人と家族が望む暮らしができるように、地域の方々が認知症について正しい知識を持ち、優しく声をかけたり、手をかしたりする等、多くの人たちが協力し、支え合う町づくりを目指しています。

今後も、皆さんが住み慣れた地域で安心して暮らしていけるように、認知症の正しい知識の普及活動をはじめ、医療と介護の連携強化や地域における体制づくり等を進めていきます。

※お問い合わせ先

高齢者支援センター  
(担当 坪塚・中牟田)  
☎32-6704

1人で悩まずご相談ください  
認知症の相談窓口

◆**高齢者支援センター**  
保健・医療・福祉のさまざまな相談にのり、高齢者の生活を総合的に支援します。  
☎32-6704  
(町役場福祉課内)

◆**はげまし会 認知症家族の会**  
介護をしている家族等が集まって、交流や情報交換を行っています。  
☎32-1164  
(町社会福祉協議会内)

◆**(社)認知症の人と家族の会 福井県支部**

認知症の方とその家族を支援する全国組織の福井県支部です。  
☎0770-53-3359  
(小浜市水取3-1-16)

◆**専門医療機関**

・敦賀温泉病院 ☎23-8210  
(敦賀市吉河41-1-5)  
・県立すこやかシルバー病院  
☎0776-98-2700  
(福井市島寺町93-6)  
・松原病院  
☎0776-22-3717  
(福井市文京2丁目9-1)



# 平成 25 年度ごみの排出量

今月号は、平成 25 年度に町から出たごみの量をお知らせします。  
平成 25 年度は、可燃ごみが大きく減量となった一方で、不燃ごみが大きく増量する結果となりました。  
ごみを減らすには、3つの R [Recycle(再利用)、Reuse(再使用)、Reduce(減らす)] が大切ですが、今後は、4つめの R [Refuse(断る)] という意識を持ち、不要なものは買わない、もらわないことで、ごみの減量化に取り組みましょう。



※お問い合わせ先  
町住民環境課 担当・山野

## 可燃ごみ

▶ 2,870 t ※前年度と比較すると 36t の減量となりました。

### 過去 5 年間の推移

| 年度 | 排出量     | 前年比   |
|----|---------|-------|
| 20 | 2,956 t | —     |
| 21 | 2,912 t | -44 t |
| 22 | 2,933 t | +21 t |
| 23 | 2,916 t | -17 t |
| 24 | 2,906 t | -10 t |
| 25 | 2,870 t | -36 t |



↑紙くず、木くず、草木、発砲スチロール、革製品、ゴム、ビニール製品、綿製品等の可燃ごみ

## 不燃ごみ・不燃粗大ごみ

▶ 276 t ※前年度と比較すると 23t の増量となりました。

### 過去 5 年間の推移

| 年度 | 排出量   | 前年比   |
|----|-------|-------|
| 20 | 297 t | —     |
| 21 | 288 t | -9 t  |
| 22 | 303 t | +15 t |
| 23 | 269 t | -34 t |
| 24 | 253 t | -16 t |
| 25 | 276 t | +23 t |



↑鍋、スプレー缶、照明器具、工具等の金属類や、茶碗、コップ、花瓶等の陶器・ガラス製の不燃ごみ

## 資源ごみ(缶・ビン・ペットボトル・白色トレイ)

▶ 111 t ※前年度と比較すると 5t の減量となりました。

### 過去 5 年間の推移

| 年度 | 排出量   | 前年比  |
|----|-------|------|
| 20 | 138 t | —    |
| 21 | 131 t | -7 t |
| 22 | 132 t | +1 t |
| 23 | 125 t | -7 t |
| 24 | 116 t | -9 t |
| 25 | 111 t | -5 t |



↑缶やペットボトル等の資源ごみ

# 美浜発電所の状況



今回の報告では、3月15日から4月17日までの美浜発電所の状況等についてお知らせします。

万が一の原子力災害に備えた放射線防護対策工事が完成  
町では、東京電力(株)福島第一原子力発電所事故の教訓等を踏まえ改定された、国の原子力災害対策指針等を受け、昨年8月に町地域防災計画(原子力災害対策計画)を大幅に改定し、原子力発電所で特定の事象が発生した場合、PAZ(原子力発電所から概ね半径5km圏内)内の住民については、放射性物質が放出される前に全員が避難するとしましたが、万が一、その区域の要援護者や住民等がその場に留まらざるを得ないような場合を考慮し、「美浜町丹生介護予防センター」と「菅浜小学校」に放射線防護対策を実施しました。

工事概要  
放射線防護区域の侵入を防ぐ  
放射線防護区域  
美浜町丹生介護予防センター  
2階・3階部  
※平成11年度増築部を除く  
菅浜小学校  
ランチルーム・給食配膳室  
主な工事内容  
汚染された外気の侵入を防ぎつつ、人の出入りが可能な玄関「エアロック室」を設置  
放射線防護区域を陽圧(※1)に保ち、外気の侵入を防ぐとともに、汚染された外気をフィルタリングして除去(除去率99・995%以上)・換気する「フィルトリングシステム」を設置

▼停電時に、フィルトリングシステム及び放射線防護区域内の空調・電灯へ電力を供給するための「非常発電機」を設置  
▼放射線防護区域の窓や扉等を、気密性が高い仕様に交換  
町では、今後、原子力防災訓練等を通して、当該施設の運用・管理する町職員等の訓練を実施し、原子力防災対策の充実を図っていきます。  
また、本年度は、原子力災害時に、住民が避難経路上等で怪我や病状悪化等となった場合に備え、傷病者等の一時退避施設として「美浜町東部診療所」に放射線防護対策工事を実施することとしています。  
(※1)陽圧：内部の圧力が外気圧よりも高い状態のこと

第25回定期検査中  
美浜3号機  
(平成23年5月14日～)

第27回定期検査中  
美浜2号機  
(平成23年12月18日～)

第25回定期検査中  
美浜1号機  
(平成22年11月24日～)



↑汚染された外気の侵入を防ぎつつ、人の出入りを可能とする「エアロック室」



↑放射線防護区域を陽圧に保つとともに、汚染された外気を除去する「フィルトリングシステム」



↑停電時に、放射線防護区域に電力を供給する「非常発電機」